

平成29年3月3日(金)

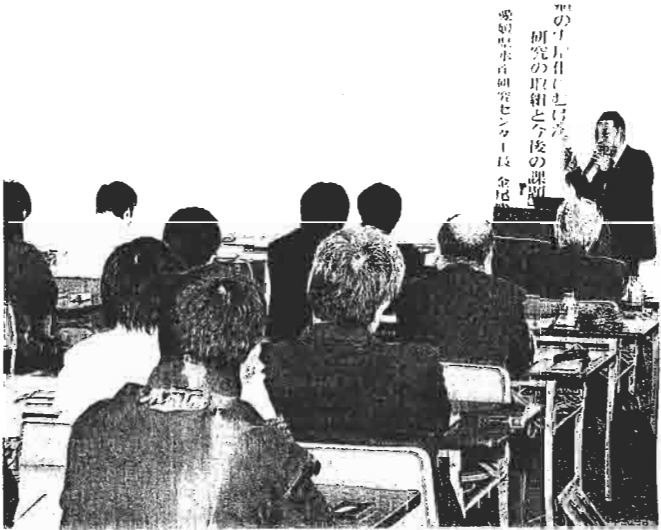
宇和島

# 宇和海水産業に活力を

## 養殖や赤潮対策 愛媛大教授ら発表

南水研の教授らが研究成果を発表した  
えひめ水産イノベーション創出地域研  
究成果報告会

2日午後、宇和島市築地町2丁目



宇和海の水産業活性化を図る「えひめ水産イノベーション」創出地域の研究成果報告会が2日、宇和島市築地町2丁目の県漁連研修センターであった。愛媛大南予水産研究センター(南水研、愛南町)の教授らが、これまでの取り組みを発表した。

文部科学省の補助事業の一環で、県や市町、愛媛大などで行っている協議会が2012年度から5カ年計画で研究。16年度が最終年度で、漁業関係者ら約100人が参加した。

基調講演では、県水産研

究センターの金尾聡志センター長が、養殖魚スマに関する研究や課題について報告した。

稚魚からわずか約7カ月で販売可能な大きさになるスマの成長速度に触れ「養殖経営にとって魅力的な魚種」と分析。課題として餌となる仔魚(しぎよ)を確保する難しさを指摘し「新たな餌の開発や安定的に仔魚を確保する方法の確立が不可欠」と話した。18年度にセンター内に生産施設の建設を始め、22年度には8

万匹の種苗生産を目指すとした。

ほかにも、南水研の教授ら5人が情報通信技術(ICT)を活用した赤潮対策や、水産ビジネスモデル構築に関する発表をした。

協議会の調整機関で、えひめ産業振興財団の亀岡洋一は「5年間の研究を通じて宇和島地域の水産業発展につなげることができた」と話した。

(石田一真)